

一心太助の天秤棒

～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担で売り歩く～

越谷市会議員 白川 ひでつぐ

シリーズ/NO 155号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期22年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4400日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は284名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



正副議長選挙で、多数派形成が旧来の枠組みから新たな事態へ転換

(前号14号からの続き) 6月2日の6月越谷市議会の初日、冒頭から混乱状態が起きたが、何とか本会議場の32名全議員の議席が決定した。議長不在(議会が始まる前に辞職するという異常事態の中で)のため副議長が開会を宣言してやっと議会が始まったのが、午後に入ってから。

議事は辞職した議長職を巡り、議長選挙が始まった。全議員の投票によって議長を決定する手順となり、公明党の畑谷茂議員と共産党の山田大助議員が立候補した結果、(畑谷23票、山田9票)畑谷議員が議長に選出された。

かつて議長選挙は、毎年一年で恒例で辞職願いが提出され交代が繰り返されて来た。そのた

め令和元年から議長は全議員の代表者であり、市長と対等な位置であり、一年交代ではそのリーダーシップや執行部との緊張関係は築かれない、との理由で二年交代に移行した。

また立候補する議員は「議長への決意又は公約」等の文章を全議員に配布し、判断材料とすることが実行されて来た。(最もこのペーパーは、議長選挙が終了すれば一切市民に公開されることがないため、私はせめて当選した議長のペーパーを市議会ホームページや議会だよりに掲載すべきと提案したが、自民党、公明党の反対で拒否された。従ってこの決意が実行されたかどうか公的に検証されることはなく、単なるその時の思いに過ぎない一瞬の形式的なものになっている、との批判の声も)

次に副議長選挙に入り、自民党から清田己喜男議員とこしがや無所属の会(私の所属会派)から菊地貴光議員が立候補、選挙の結果菊地議員が副議長に選出された。(清田議員15票、菊地議員17票)投票は記名投票ではないのでどの議員が誰に投票したかは正確には把握出来ない。

しかし、この間の議会人事等は第一会派の自民党と第二会派の公明党と何故か立憲民主党、維新の会の連携(水面下での談合?)によって全て決定されて来た。

今回もあくまでも推測に過ぎないが、清田議員票は自民党5票、公明党6票、立憲民主党3票、維新の会1票、合計15票。一方菊地議員票は、ネクスト越谷7票、こしがや無所属の会4票、共産党3票、市民ネット3票、合計17票。

更にその後4つの常任委員会の正副委員長の選出、その後本会場での市長提出議案の提案説明、一般質問の質問項目の提出、その順番のくじ引きと続き初日の終了時間は、翌日午前2時を回っていた。

(また、議会三役と言われる、監査委員の中で議員から2名の選出を巡り、これまた旧来の決定が変更された。この監査は市長提出議案として最終日に提案されて議決するのだが、その人選は議会(議長)から推薦する議員を市長はそのまま提案する。そのため議案が否決されることはない。事前に各会派代表者で、それぞれの会派から立候補の有無を確認する場で、ネクスト越谷から野口高明議員を、公明党はなし、自民党もなし、こしがや無所属の会もなし、立憲民主党は、後藤孝江議員、共産党は、工藤秀次議員、市民ネットは山田裕子議員、(裏へ)

維新の会はなし、を表明したため、2名に限定しなければならないため、議長の調整に委ねられた。当然だが、議長は議会の過半数を確保出来る議員を推薦する事が必至であり、結果は、野口議員とや山田議員が市長に推薦され、最終日に議決された。ここにも過半数を制する会派の構成が大きく変化した事を示す結果となった)

(6月2日・月曜日)

カラスが、のど飴の袋を突いてやぶった。



今朝の駅立ちは、新越谷駅東口で通常通り午前6時前から午前8時30分過ぎまで実施した。街頭での報告は、6月越谷市議会の初日の異常事態の経緯やその原因を中心を大型スピーカーで訴えた。

この駅には、何時もカラスが路上の食べかすやごみを狙って朝から飛び回っており、この日も2匹のカラスが鳴き声とともに天井の鉄パイプを行きかっていた。

私は喉の痛みを癒すため、常時喉あめを携帯しており、そののど飴を演説台の上に置いていたものの、演説に集中して気がつかなかったが、一匹のカラスがその袋を嘴で突いて破っているを発見したが、幸い飴までは食べられていなかった。カラスは人間に次いでイルカと同様の脳機能を持っていると言われている事が、なるほどと納得した朝だった。

(6月4日・水曜日)

陳情処理に、担当課長への善処をお願いに。直ちに次に日に実行してもらった

今朝の駅立ちは、越谷駅西口で、午前7時から午前8時30分過ぎまで市政レポートの配布と6月市議会の冒頭の“混乱”を報告した。

この間、3件の陳情が私に寄せられており、その対応のため庁内を走り回り、陳情先の課長さんに事情の説明と改善をお願いした。まずすでに陳情を受けて一年以上がたった案件。それはせんげん台駅西口の歩道上にたばこの



吸い殻を捨てていく市民が多くいるので、歩道上に大きなポイ捨て禁止のステッカーを貼付して欲しい、と毎回駅頭でお会いする馴染みの駅前自転車整理係の高齢男性から一昨年暮れに陳情されていた。そこで市役所に出向いて担

当の維持管理課長さんに話したところ、そのステッカーはせんげん台駅に限らず他駅前にも計画しているが、令和6年度予算で対応します、との応答だった。

しかし、一年たっても実行されていないので、この日の陳情となったところ、担当課長さんが人事異動で変わっており、新任の課長さんからせんげん台駅西口周辺は条例によるポイ捨て禁止地区の指定ではないので、そのステッカーは貼付出来ない、との返事。

その上でなお善処をお願いしたら看板をフェンスや電灯の柱に設置出来るか、現地を調査し対応します、との事だった。(ところが、何と次の日の朝に看板を設置しました、と課長さんから連絡があった。私は22年間市議会議員をしており、様々な陳情を受けて役所をお願いしてきたが、陳情した次の日、しかも午前中に実行してもらったのは初めての事であり、課長さんにもそも旨を話し感謝を伝えた。)

私の自宅の前にあるふれあい公園の入口の階段が古くなっており、これまで補修や手すりの設置をしてもらっていたが、2段ある石製の階段の幅がせまく高齢者が躓いてケガをする危険性があるので、幅をもう少し広げられないか、自治会役員として先般来役所に陳情しているが、更にバックアップして欲しいと陳情を一週間ほど前に受けていた。そのため、公園緑地



課長さんに、事情を話したところ確かに以前から要望を受けていたんで、何とか善処したい、との応答だった。恐らく補修ではなく、全面的に階段をつくり直す必要を要するため、直ぐには改善が出来ない状況なのだろう。そのため予算措置の対応

が求められている、と推認した。3件目の陳情は次回号で。

(6月5日・木曜日)